

---

# MOON-4 夜叉 3 < 2 0 >

みづき海斗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

MOON - 4 夜叉3×20>

### 【Z-IPアード】

Z1339Z

### 【作者名】

みづき海斗

### 【あらすじ】

桜の元に捕らわれた秀が裕希を襲う。その裕希を救つたのは、早坂 充刑事だった。

MOONシリーズ第4弾『夜叉 3』 第3話です。

### 3・君がない・3（前書き）

ぶつた切りつつ掲載します（＝＝）。。。

### 3・君がいない・3

ガシャン

「・・・・・」

1階のリビングで薄暗い中、僅かな灯りを頼りに雑誌を読んでいた榎は、テラスからの物音に振り返り、ソファを立った。閉められているはずのガラスは割られ、そのレースのカーテンに縋る秀の姿が榎の目に映つた。

「秀！」

俯く秀を両手で支える。「何があつたんだ。」

黒い瞳を光らせ、榎が尋ねる。

「・・・・・」

秀はゆっくりとその顔を上げた。

じつと榎の顔を見つめ、それから、

「・・・・・和人・・・・?」

「！・・・・・・・・・」

そのままゆっくりと秀の体は、榎の両腕におさまってしまった。

「秀つ！」

そのままゆっくりと秀の体は、榎の両腕におさまってしまった。

「『銀』か・・・・・・・！」

秀を抱き上げて榎が呟く。

「秀！榎！？」

物音を聞き付けた桜が赤いドレスのまま、2階から走り降りて來た。

その薄暗い闇の中に浮かぶ2人の姿を確かめ、

「・・・・・・・あの子ね。」

桜は鋭い眼差しを榎に抱かれた秀に向ける。

そのまま、秀の元へと走り寄り、

「秀、しつかりして！」

声をかける。

「・・・・・」

秀はうつすらと田を開いた。「・・・・・朝子と・・・・・

・裕希は？和人・・・・・・・・

榊を見上げ、掠れる声で呟いた。

「秀・・・・・・・・！」

桜はその台詞に動搖した様子を初めて見せ、右手の人差指を秀の額に当てようとした。

と、榊が、

「やめろ、お嬢！」

珍しくきつい口調で彼女の行動を制する。

「だつて、榊！」

少女は青年に向かい、「秀が記憶を取り戻したらどうするの？また、どつか行っちゃうじゃない！」

「それでも」

榊は目を細め、静かに言った。「・・・・・・・・それでもお嬢。

今はこのままに。」

そのまま意識を失った秀を抱いたまま、桜の脇を静かに通り榊は2階への階段を昇り始めた。

「榊！」

「お嬢。」

少し振り返り、「『記憶』はたぶん一時的なものだ・・・秀は『

銀』の弾丸で撃たれてる。寸前の所でよけたんだろう、心臓も額もあたつてない。出血が止まればまた元の通りだろ。」

「・・・・・・・・・・・・

桜は紅の唇をきつく噛み締め、彼らの後姿を見送った。ちぎれたレースのカーテンが、夜風に激しくまたたく。

「許さない。」

一言、桜は呟いた。「篠原裕希。」

「

突如。

激しい桜吹雪が、部屋中に巻きあがつた。

刹那。

少女の姿は、その花弁と共に闇へかき消えた。

3・君がいない - 3 (後書き)

"愛読の程を . . . . .

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1339n/>

---

MOON-4 夜叉 3 < 20 >

2010年10月10日20時01分発行